

平成30年度 精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議 (地域創生戦略効果検証会議) 会議概要

○日時・場所

平成30年8月2日(木) 午後2時00分から午後4時30分まで
SEIKA クリエイターズインキュベーションセンター

○会議概要

1. 開会

精華町長 あいさつ

2. 出席者紹介

別紙資料「有識者名簿」のとおり

3. 資料説明

①精華町地域創生戦略（概要）

別紙：資料①「精華町地域創生戦略の基本的な考え方」にもとづき、精華町地域創生戦略の策定経過及び基本的な考え方について事務局より説明。

②地方創生関係交付金の状況

別紙：資料②「地方創生関係交付金等の採択状況」にもとづき、平成26年度以降の地方創生に関する各種交付金の活用について事務局より説明。

③地域創生戦略関係事業の実施状況

別紙：資料③－1～4「地域創生戦略関係事業実施状況1～4」にもとづき、平成29年度に実施した、地方創生推進交付金及び地方創生拠点整備交付金の対象事業の実施状況について事務局より説明。

④業績評価指標（KPI）年次経過報告

別紙：資料④「業績評価指標（KPI）年次経過報告」にもとづき、精華町地域創生戦略に掲げる基本目標等に設定された業績評価指標（KPI）について、目標値に対する実績値の動向について事務局より説明。

4. 説明内容へのコメント・意見交換

【資料説明を受けての有識者各委員よりの主なコメント】

・人口が増加傾向にある町であることから、人口減少に対する未来投資的な対応の

事業が多い特徴がある。

- ・町内外の人たちが、多様に交流できる環境、関係をつくる事業展開が、精華町の地方創生だといえる。
- ・人口が減ることは間違いない。交流人口以前の問題として、自治会の運営の担い手がなくて交流どころでない。伝統文化を継承する担い手がいない。
- ・旧村は自治会や地域活動の元気、活力を生み出す地方創生の提案を応援するような制度があると良い。
- ・全国的な動きとして、小規模多機能自治という言葉が出てくる。小学校区単位ぐらいで、自治会が複数まとまって地域運営組織を作るとというのが一番最先端の動きである。
- ・住民のニーズで地域のためにやりたいという視点がやや弱い、地域からの提案をもらえるような地方創生事業も入れて欲しい。
- ・イチゴがブランド化されているが観光イチゴ狩りだけでなく、加工や販売にも力を入れていかなければならない。
- ・ふるさと納税を戦略的に活用し、地元経済につながるよう検討してほしい。
- ・チェーン店では地元にはあまりお金が落ちない、地元の店をなるべく利用してもらえ戦略も必要。
- ・直接的なお茶の生産は無いが、お茶の京都、宇治茶のブランドを利用しない手はない。2次、3次加工で新しい何かを開発してもらいたい。
- ・旧村の担い手不足について、開発地域の住民には幾らでも手を貸すという人がいるので、その辺を上手くする方が良いと思う。
- ・精華町では本籍地人口が人口 37,529 人に対し 2 万 5,325 人、府北部ではほぼ逆転しているが、地域のファンになり得る人口ではないか。こういったところにアプローチすることは大事だと思う。
- ・町外に住んでいる町職員を、町内に住んでももらえるようにすることも、事業としてできると思う。
- ・地元金融機関と町で魅力発信パートナーシップ協定を結び、RESAS を活用した分析を行った。時間軸を少し長く見て産学官でいろいろ交えてやっていくべき。
- ・SNS のフォロワーの約 9 割は恐らく町外の方であり、町や京町セイカを応援しようと思っている。こういった人たちを離さないことが大事。
- ・精華町で議論するときは、長らくお住まいの旧住民と新しく引っ越してきた新住民、そしてバーチャルな住民がいる。この皆さんが交流できる仕組みづくりをやっていくと非常に面白い。
- ・京都市内ではホテルが満杯状態であることから、駅前に宿泊施設を作る検討をしても良いのではないか。
- ・単独で精華町の観光を考えるのではなく、京田辺や大和、伊賀も含め相楽地域には素晴らしいところはたくさんあるので、一緒にやっていく気風も大事だと思う。
- ・未来投資促進法を活用することで、企業が設備投資をすれば税制の優遇が受けられる枠組みがあり、ホテルの誘致などができる状況にあるので、是非やってもら

いたい。

- ・「コミケ」や「ニコ動」といった単語が出てくるユニークな自治体であると同時に、普段なかなか自治体が届かない人たちに直接届くツールを持っていることは、すごい強みだと思う。
- ・駅前で何か食べようとしたときに、少しさびしくなった。東京など、余所から来た若い人たちが、少しおしゃれなカフェを開いてもらったりしてもらえたらと思った。
- ・そういった若い人たちが欧米の方を呼んで観光ツアーをつくったりすることで、町の空気を変えるようなものが生まれてくると、横のつながりで面白いクラブのようなものができるのではないかな。
- ・近隣に大学が多いので、学生によるビジネスコンテストなど起業につながるようなプランは出すことができる。
- ・ハッカソンの話があったが、町から大学の方に出向き、昼休みやセミナーなどで精華町の取り組みをPRすれば何かできるのではないかな。
- ・フレーバーティーなどを、大学生協をサテライト拠点として置くといったことを全国にすれば、良いものは必ず売れると思う。
- ・けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)に、地域の人、子どもが使えるところがようやくできた。セイカ子ども大学など、継続的かつ精華町の子どもだけでなく、他のエリアの子どもたちがみんな入ってこられるような事業に育ててほしい。
- ・東光小学校のブラスバンドを聴いて感動した。ああいった文化の伸ばし方を考えてほしい。
- ・精華町に腰掛けとならないように町に誇りを持ってもらうことが一番大事。500年前に、血を流して自分たちの権利を守ったという経緯のある山城国一揆を、精華町から世界に発信してほしい。

【座長からのまとめの発言】

- ・この町には特色というものがいろいろあり、発信とチャレンジをするまちだと思う。このような唯一無二の発信をしているまちの強みを活かし、現在だけでなく歴史など町の物語として、国内だけでなく多言語での発信を含めて、引き続き発信とチャレンジを続けて欲しい。
- ・関西と筑波の学研都市の違いは「文化」が付いているかどうかにある。文化経済という話のなかで「ボヘミアン指数」という、どれだけまちに文化的な人がいるかといった指数がある。精華町もサブカルも含めて文化人が集まる、住むかどうかは別として魅力的なまちだと思うので、積極的な発信をお願いしたい。それと、文化と経済がお金になっていないのが非常に残念。京都市の観光消費額は1人2万円であり桁が違う。数は増えなくても1人当たりの消費額が増えれば良い。民が頑張ってもらおうプラットフォームづくりの検討をお願いしたい。
- ・「交流」という話が冒頭あったとおり、旧住民と新住民のみならず、国外の人た

ちやインターネットのバーチャルな人口との交流が今日見えてきた。自治体の SNS でこれだけ外部のフォロワーがあるのは府内では精華町ぐらいだと思う。このフォロワーを是非活かしてほしい。また、その交流を役所がやっているからではなく、住民の皆さん自身がどう関われるかについても考えてほしい。ここには多分、子どもたちが接する機会が大事だと思う。石川県の 21 世紀美術館では、小さなころから場に集まることで美術に触れ、大人になったときに文化経済につながることをやってのけている。KICK の拠点で、京町セイカちゃんとデビューする、あるいは海外の人たちと初めて出会う、それが住民同士の交流で倍になる可能性を感じる。是非この場を活かして、精華町の強みをさらに磨いてほしい。

- ・最後に、町のホームページにおいて、地方創生のコンテンツの充実をお願いしたい。また、今回の会議の概要が伝わるペーパーを是非ともお願いしたい。

5. 事務連絡

6. 閉会